

平成30年 第4回滋賀会研修会

＊日 時：平成30年12月9日（日）10：00～15：30

＊場 所：みなくちこどもの森（甲賀市水口町）

＊天 候：曇り

＊参加者：小西、水田、高田、関澤、馬場、高橋(報告) 計6名



今年度の滋賀会定例研修の場所は、緑の少年団指導者研修会の会場から4カ所を選定して実施しています。第4回最後の研修は甲賀市水口町の「みなくちこどもの森」で実施しました。

暖冬と予報されているこの冬ですが、研修当日は今年一番の寒波が襲来し、曇り空で風のある真冬の森の観察会となりました。幸い「こどもの森」で森林整備活動をしている水田会員に準備してもらい、調理した温かい豚汁を昼食時にいただきました。また、水田さんの活動のひとつである森に繁茂した竹を伐採する活動も体験できました。

研修の狙いは、初冬の森の観察～木の実や冬芽など～でしたが、それ以外の珍しい発見もあり充実した研修となりました。この報告では木の果実や種子を中心にまとめました。

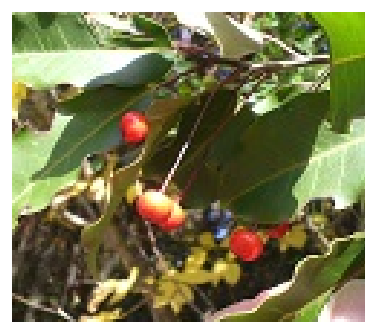
1. 「みなくちこどもの森」で見つけた果実や種子



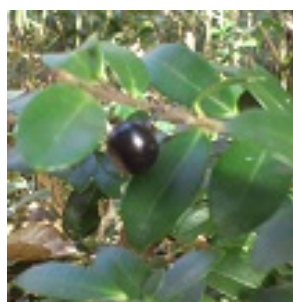
ツガの球果



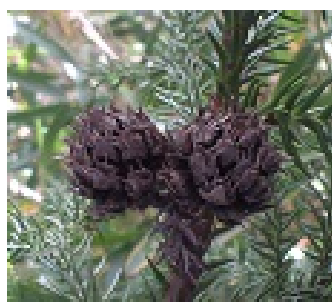
スダジイ



ソヨゴ



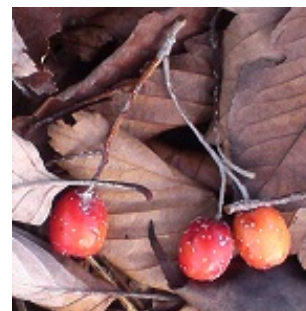
イヌツゲ



スギの球果



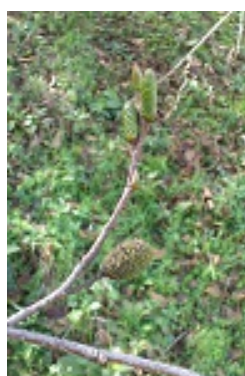
サルトリイバラ



ウラジロノキ



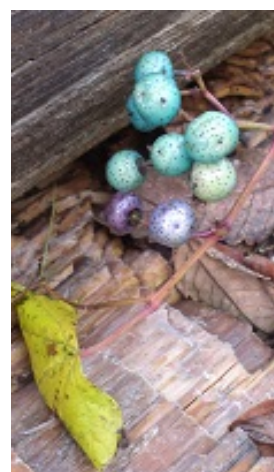
ウリカエデ



オオバヤシャブシ



ノイバラの仲間



ノブドウ



ヤマノイモ



アオツツラフジ



ムラサキシキブ



コマユミ



アキニレ



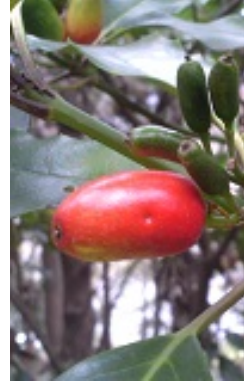
モッコク



センダン



フユイチゴ



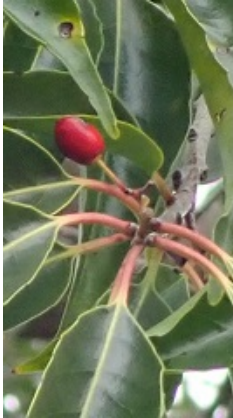
アオキ



ツルリンドウ



カラスザンショウ



ナナミノキ



アズキナシ の 葉と実



ヒサカキ



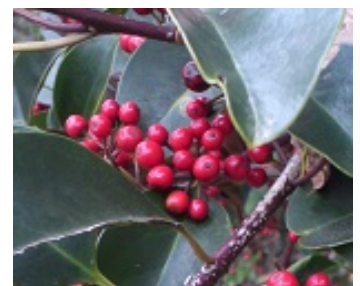
ハンノキ



カマツカ



スズメウリ の 果実と種



クロガネモチ

「みなくちこどもの森」を約2時間半をかけて巡り自然観察をしましたが、前頁に掲載した写真のようにさまざまな果実を観察できました。撮影できなかったのですが、シデ類やフウ、メタセコイアなども果穂や球果が残されており、この森の豊かな実のりを窺わせます。樹種によっては、鈴生りに果実が実り、寒さと戦う森の生命力を見せてくれていました。



クロガネモチの鈴生りの実



ウラジロノキ と 樹下に散乱した落葉と実



ウラジロノキはバラ科ナシ亜科アズキナシ属、同属のアズキナシの葉と果実を並べて比較。両種とも果実はナシと同様に果肉に石細胞(せきさいぼう)を含み、食べるとシャリシャリした食感。見た目は小豆で味は梨なのでアズキナシ。葉の裏が白いのでウラジロ。

【石細胞】細胞壁にリグニンやセルロース、シリカなどの物質が蓄積し石のように硬くなった細胞。

2. 森の中での虫たちの営み

(1) 虫こぶ



ソヨゴメタマフシ



イヌツゲメタマフシ



アオキミフクレフシ

虫こぶの断面の溝にタマバエの幼虫が棲んでいます。黄色の箇所は幼虫を切断して滲んだ体液か？ この3種すべてタマバエの仲間による虫こぶ。今回、カメラに残っているのはこの3種ですが、じっくり探せば10種類以上の虫こぶが見つかると思います。

(2) 蟻道



アズキナシの蟻道

(こどもの森)



イチジクに作られた蟻道

(高橋家裏庭)

「花の森」から「西尾根の小径」に入ったところで、アズキナシの幹に造られた蟻道を見つけました。これはトビイロケアリという蟻が木くずを唾液で固めてトンネル状にした蟻の通り道です。樹上のアブラムシがいるところまで続いているようで、中にアブラムシがいることもあります。



トビイロケアリ

トビイロケアリは日本全国普通に見られる蟻で、実は我が家の庭のイチジクにも蟻道を造っています。数年前の滋賀会定例研修で高島トレイルの黒河峠から明王禿を歩きましたが、そこではススキの茎に蟻道が作られていたのを思い出します。ススキの蟻道は土でトンネルが作られていました。

(3) トリノフンダマシの卵囊



昼食を取った「森の広場」で偶然見つけたトリノフンダマシの卵囊。虫大好きな関澤女史に「これ何？」と聞くと「珍しいものを見つけてくれました」と褒められました。ネットで調べるとオオトリノフンダマシ(コガネグモ科)の卵囊のようです。成虫の写真を添えます。

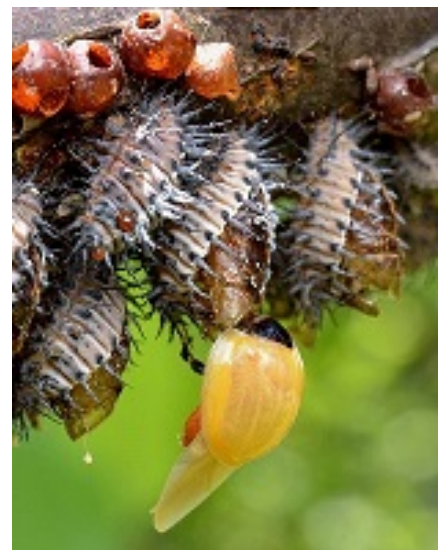
(4) アカホシテントウの蛹の脱殻



駐車場近くで梅の木に付いていたハエトリソウのような形をしていたものを見つけました。研修担当の小西さんに調べていただき、アカホシテントウの蛹の殻だと分かりました。その横にある茶色の粒々は、ウメなどに被害をもたらすタマカタイガラムシの♀。アカホシテントウはそのカイガラムシを食べてくれる益虫です。しかし、どう見ても東宝の怪獣映画に出てきそうな怪物です。

梅の樹液を吸うカイガラムシ、それを食べるテントウムシアブラムシを蟻道で守る蟻、植物に虫こぶを作らせるタマバエ。森の中で虫たちは密接なつながりを持って生きていることを痛感します。

* 虫の成虫の写真はインターネットから取得



アカホシテントウの羽化

3. 森の中での人の営み



アカホシテントウ蛹
脱殻／タマカタカイ
ガラムシの観察



豚汁の調理
小西研修担当は
火起こし・調理担当
でもあります



竹の伐採
前回研修に続き参加
されたフォレスト・
ワーカーの馬場さん

*写真の一部は関澤
さんからいただきました

(報告者：高橋 優)